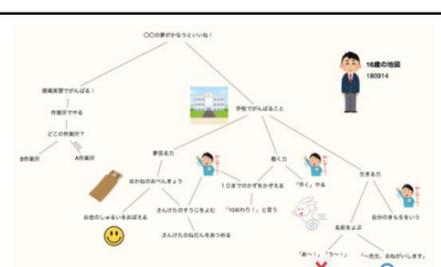


支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成 30 年度 16歳の地図を作成しよう
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 ■その他(三者面談)
	単元・題材名	「16歳の地図を作ろう」
	授業の目標	高等部の三者面談で、プロジェクターを用いて画面を表示し、アイディアプロセッサを用いて、個別教育計画にある優先目標を夢や目標と関連付けた図を作成し、発表する。
	学力の3要素	■「知識及び技能」 ■「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実際	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 ■特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 ■高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 高等部 1年 8人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 ■知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 ■自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) ■その他(ダウン症)
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること ■聞くこと ■話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること ■概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 昨年度は、中学生であったため個別教育計画にある課題や目標を本人と共有することはなかった。 作業学習などにおいて、各作業班に応じた個人目標などを設定するのだが、実際にその目標をクリアすることで自分の生活にどう影響を及ぼすのか、という長期的な見通しは持てていなかった。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(■A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 ■C2認知発達支援 ■C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 目標と目標を達成することで自分自身の生活にどのような影響があるのか、中長期的に見通しをもつことができるようにする。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	○スクリーン及びプロジェクタ ○PC ○アイディアプロセッサ 
授業展開	授業展開・支援の手立て	図を1から一緒に作成したことで、本人も「○○がしたい」といった意思表示をすることができたとともに、将来の働く生活をイメージして現在の学習に取り組むようになった。また、「しつこく話しかける」→「友達にきられてしまう」といった、自分の行動とその結果といった事象の因果関係についても理解することができ、行動をセルフコントロールしようとする姿が見られるようになった。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	一つの画面を見ながらアイディアプロセッサを使用して図を作成することで生徒本人・保護者、さらにはTT間で、課題の構造やその意図・見通しを簡便に共有することができ、将来を見据えた話し合いができた。